



町を変えるのは私たち 町民一人ひとりの一歩

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報誌 2023年3.4月合併号（NO.48号）

新年度に
向けて

南波久・共同代表より新年度のご挨拶



3月1日から一週間続いた樽岸漁港での群来

かつて栄えた鯨漁……。白濁に染まった寿都湾が久しぶりに賑わいを見せた3月……。その光景を初めて目の当たりにした僕は、生命力という自然の素晴らしさへの感動と共に、この自然を永遠に残そう。海とともに生きてきた先人たちのスピリットを伝えていこう。失うようなことをしてはいけない。そう強く思ったものです。

そんな小さな港町、寿都町が全国的に有名になったのが、3年前、片岡町長の文献調査への応募から始まりました。言わずと知れた、核のゴミ最終処分場選定への第一歩を踏み出したことです。この日から、声には出せない、目には見えない町民の分断が広がっているのではないのでしょうか。片岡町長やNUMOが掲げた「対話の場」では多くの町民の声を聴き、町民の理解を深め、十分に議論を尽くすということがそもそも実行されているのでしょうか。残念ながらその実情は説明も理解も不十分ではないのでしょうか。核燃料サイクル計画は国策で、本来ならば日本全体で国民的な議論が必要なはずですが。この計画では4万本もの核のごみ（ガラス固化体）が発生し、これは広島原爆120万発に相当する放射能をもちます。放射能が十分に安全なレベルに減衰する10万年先まで地下300mより深い所に核のごみを地層処分する計画です。しかし、本当にサイクルは実現して10万年もの先の安全を確保できるのでしょうか……。

その処分地の選定から施設建設、操業、閉鎖までを手掛け推し進めるのがNUMOです。そのような組織が寿都の町づくりをコンサルタントすることに違和感を覚えるのは僕だけでしょうか……。このまま近隣自治体と連携もとらずに調査を進めても町づくりにはメリットよりも悪影響のほうが大きく禍根を残すだけではないのでしょうか。いったん立ち止まり賛否双方の意見を吟味し地域がまとまって進んでいける未来像を描くことが必要と思います。

片岡町長は「核のゴミを持ってくるとは言っていない」と言いましたが、「核のゴミは持ってこない」と約束もしていません。さらに鈴木北海道知事との面談で「精密調査」まで行くと発言しています。この先、町議会選挙、文献調査の次の段階にあたる概要調査に進むかどうかの瀬戸際にさしかかっています。進むか進まないかの住民投票の実施……。町民ひとりひとりが自分の問題として考えていくことの大切さを強く感じています。

「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」は、町内の皆様、道民、日本中の皆様より多くのご支援やご声援を頂きながらこの問題に取り組んでいます。寿都町を、北海道を核のゴミ捨て場にしないという決意でこれからも活動を続けていきます。今後とも「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」をよろしく願い申し上げます。

シンポジウムで報告された「寿都の対話の場の今」

感想



<https://chisoumirai2023.go.jp/>

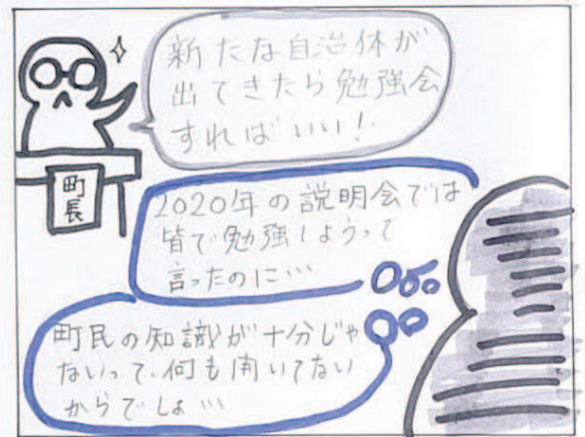
上記経済産業省のHPのリンクからYouTubeにアクセスしないと視聴できません。

2月10日(金)、経産省主催の「わたしたちの子どものための街づくり～地層処分問題と共創する未来～」というシンポジウムが東京で開催され、当日の会場には約120名・オンラインでの視聴者は約190名いました。参加者人数は合計約310名となりますが、この中に何名の寿都町民がいたでしょうか。このシンポジウムの存在を町民に周知される事もなかったので、寿都町民の大半は存在も知らないまま開催され、終わったものと思われます。このシンポジウムには、寿都町町長の片岡氏と寿都町役場企画課職員も登壇者として会場に参加していました。

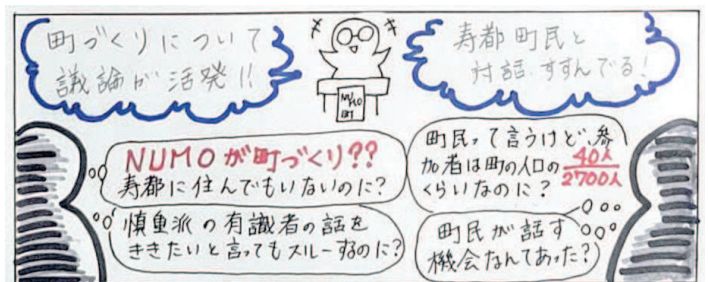
この日、片岡氏は「自分は隠すことのない人間だ」と言いました。しかしここ2年くらいは最低限の学校行事等以外で彼の姿を町内で見ることほとんどありません。ですがテレビやこういった会には参加している様子です。議会をもっと開けたものにして欲しいと訴えても、今も尚とても閉鎖的。隠す事がないなら、寿都の行政の在り方はもっと開放的で透明になるべきです。

彼はまた、自分を「短絡的な考えで、やれば出来るんじゃないかと思った」と話しました。その考え方と行動の成功の裏で数々の失敗もしているわけですが、そういった新たな企画や事業は「始めた時」は大々的に報告して、失敗した時は何の報告もなくスーッと消えていっているのが現状です。そこにしっかりと関心を持って批判や意見を述べる議員や町民もいなかったというのも、また事実でしょう。

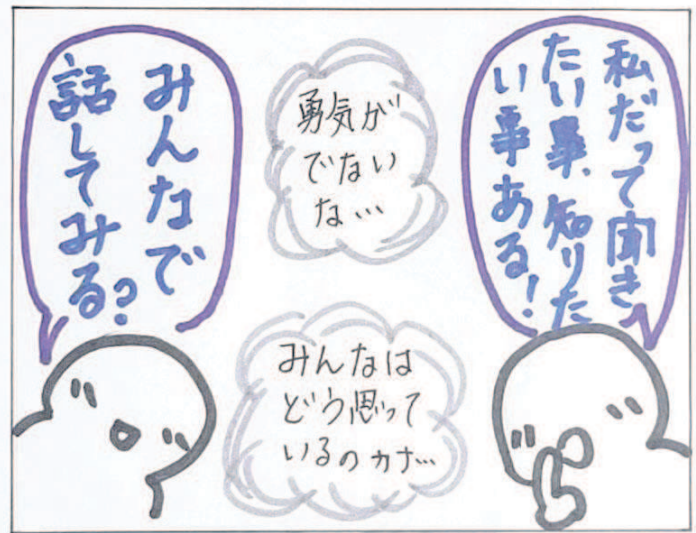
片岡氏は「文献調査に手を挙げる新たな自治体が出てきてから勉強会をすればいい。そして理解が進んだら住民投票をやって概要調査に進めたい」と話しました。文献調査で終わらず、先へ進める気でいるのです。2020年の最初の説明会では「皆で勉強しましょう」と言いましたが、それから今日までの約2年半、町民を対象にした勉強会が開かれた事はありませんし、町民の会主催の勉強会や講演会にお誘いしても来てくれません。それなのに報道では住民投票のタイミングについて「町民の知識が十分でないので、住民投票はまだ早い」と発言しました。



寿都町や神恵内村で2020年11月から開催されてきた「対話の場」については担当ファシリテーターの竹田氏や大浦氏・寿都町役場企画課職員や神恵内村役場企画振興課職員が「対話の場の今」について語りました。「回を重ねるごとに参加者は積極的に議論し、今では時間が足りないほど」「参加者は町づくりに関しての意見交換や議論はかなり具体的な内容まで活発に出ていて、文献調査の対話の場だという事を忘れて盛り上がる」と、成果を発表していました。【対話の場が町の将来について話をするきっかけになった】【対話の場が成功している】と印象づけようと、何度もそこを論じていましたが、忘れてはいけません。違和感を逃してはいけません。**NUMOは町づくりをするために来たのですか？違います。**



最終処分と共生する地域の将来の持続的発展に向けた各種施策の企画・実施を目的とするのがNUMOです。そこには最終処分場ありきなのです。確かに、きっかけにはなったかもしれませんが、町づくりというものは本来、寿都で言えば寿都町民と寿都町役場などの行政で議論し、作りあげていくものでありNUMO主体で進めていくものではありません。私たち寿都町民がいないところで好き勝手言われたり進めたりされないように、寿都町民の皆さん、私たち町民が主体となって、将来の寿都がどうあってほしいのか・将来世代に残したい寿都はどんな姿か、真剣に話ませんか？



新切り口！ 神と槌谷の“ここが変だよ寿都町議会”①

「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」の会員である私たち二人が、令和3（2021）年5月12日函館地方裁判所に議員全員協議会議事録を開示するよう求めて訴えを起こしました。このことで全国から沢山の激励と支援が寄せられ、訴えから一年後の令和4（2022）年3月29日の勝訴判決により4月27日議事録が開示、以後、議事録は問題なく公開されるようになりました。その議事録を読むと、町民を蚊帳の外にした「議員全員協議会」という所で寿都町行政の意思決定の殆どが行われていることが分かりました。

そもそも議事録は公文書ですから住民から要請があれば開示することになっているのです。しかしながら寿都町議会議員の多くの方々は開示されるとは知らなかったようです。もっと言うと情報公開条例を知らなかったか都合よく解釈していたことになります。

「公開となればもう全員協議会の会場は本会議場という事になるんですかね。（以下省略）」との議員の発言に対し、片岡町長は「（一部省略）今まで全員協議会であろうが議員協議会であろうが、私が町長に就任してから、ざっくばらんにやりましょうよってということで、本音で議論しようってということで、ほとんどそれが行政側と議員さんとで馴染んできましたよね。たまたま今回核の問題でそこがちょっと、皆さんピリピリするようになって、ほかの案件って殆ど今までと変わらない。

ただその中で私の提案なんですけれども、全体的な全員協議会の中で、ここで結構質疑ありますよね、本会議でほとんどシャンシャンなんです。これを皆さんにお願いしたいのは、ここで質問したりしたものを本会議場でも同じふうに質問して、傍聴人にそれを分かりしめないで議員さん皆、片岡にうまくやられているんじゃないかみたいな、そういう噂話も出ているんで、面倒かもしれませんが同じステージ、本会議で議員さんの方から行政側の方に質問を投げかけてもらって、そこで答えて、最終的にシャンシャンという形にするのが、傍聴人にも分かりやすいと思うんです。」

このやり取りは議事録のほんの一部ですが何をお感じになりますか。町の行政運営が「ざっくばらん」な議論で、「シャンシャン」と緊張感なくなされている議会を良しとしますか。



3.11から12年 共同代表・三木信香が札幌で講演



3月11日に反原発活動で著名な京都大学の元助手の小出裕章さんの講演会「核のゴミとでたらめな原子力政策」が札幌の自治労会館で開催されました。

小出さんは講演の中で、東京電力福島第1原発事故による放射性物質の甚大な被害を指摘し「自分で始末出来ないゴミを作ってはいけない」と力説していました。また、「機械は故障し事故を起こす。福島事故で大気中に放出された放射能で大地が汚染された」と指摘し、「無害化出来ないゴミを貧しい自治体に押しつけてようとしている、電気のメリットを相当受けている都会でリスクを引き受けるべきだ」とも論じていました。最後に「自分が生み出すゴミの始末の方策が今は分からないからこそ原子力に反対してきた。埋め立てにするのが正しく

ない以上、私たちの黒い目で監視できる状態で貯蔵を続けることが、今できる唯一の方策。中間貯蔵でやろうとしている技術で保管することだ」と話されました。

私は、1部で寿都からの報告として町の現状をお話しさせて頂きました。未だに町主催の勉強会が開かれていない事。今ある表面上の分断、心の分断がこれから行われる住民投票や町議会選挙により更に分断されるだろう寿都の町民の事。私たちは会として国や町長が仕掛ける分断を乗り越えて対話をして行きたい声に会場からはたくさんの応援を頂きました。

コロナが少しずつ落ち着きつつあるためか会場には300人程の方が集まりました。改めて3・11はまだ終わっていない。ずっと終わらない事を実感しました。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811



2023年3・4月合併号 (No.48)